

# 研究紀要

<研究主題>

深い学びに向けた授業・家庭学習の創造  
～「学びに向かう力」の育成を目指して～



令和5年11月29日(水)

松浦市立御厨中学校

# 1 研究の主旨

現代の情報化社会の中、人工知能(AI)の発達からも明らかなように、生徒たちが活躍する近未来においては、想像以上の変化が起きる社会の出現が現実的となった。

そのような変化の激しい社会においては、ただ単に、一方的に知識を教えるだけの教育を行っていても、期待される資質・能力を育成することはできない。もちろん知識の習得は重要ではあるものの、これからの社会においては、身の回りに生じる様々な問題に立ち向かい、その解決に向けて異なる多様な他者と協働して、それぞれの状況に応じて最適な解決方法を探り出していく資質・能力が求められる。また、様々な知識や情報を活用・発揮しながら自分の考えを形成したり、新しいアイデアを創造したりする資質・能力が求められる。

そのような資質・能力を本校では「学びに向かう力」と捉え、「学びに向かう力」を「主体的に学ぶ態度」・「よりよい生活や人間関係をつくろうとする態度、自分を律する力」・「自分を客観的に把握する力」の三つの視点から、以下のように整理した。

○「主体的に学ぶ態度」とは、「受動的な授業」から「能動的な授業」への授業改善により、課題に対し自分の考えをもったり、自分の言葉で説明したりして思考を深める態度である。本校では、「長崎県授業改善メソッド」に沿い「御厨中授業スタンダード」を作成し、めあての設定から、主体的・対話的な学びを経てまとめにたどり着き、自己の学習を振り返ることを繰り返し、「主体的に学ぶ態度」を育成してきた。

○「よりよい生活や人間関係をつくろうとする態度、自分を律する力」における「よりよい生活や人間関係をつくろうとする態度」とは、基本的生活習慣の上に、友だちのよさや集団で学ぶよさに気付き、支持的風土を醸成する態度のことである。「自分を律する力」とは、家庭学習について計画的・継続的に取り組む自主的な態度のことである。なお、基本的生活習慣とは、睡眠習慣やメディアコントロール、整理整頓、あいさつ、読書習慣を指している。本校では、基本的生活習慣を「未来を切り拓く5つの習慣M」として、生徒会、学校保健委員会、2小・1中で連携を図りながら繰り返し指導することで意識化を図り習慣化を目指している。

○「自分を客観的に把握する力」とは、自分の学習活動を振り返り、自分の到達点を計ったり、自身の成長や変容に気付いたりして、新たな自分に気付く力である。

以上のような「学びに向かう力」を身に付けさせるために、本校では研究主題と副主題を次のように設定し、研究の推進にあたっては、以下の3つを基本方針とし取り組んできた。



主題: 深い学びに向けた授業・家庭学習の創造

副主題: 「学びに向かう力」の育成を目指して

## 【研究推進の基本方針】

○授業改善においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために協働的な学習を仕組む。

○家庭学習においては、授業との関連を図り、自らを律し計画的に家庭学習に取り組む力を育て、授業と家庭学習が往還する学習サイクルを確立する。

○学級経営においては、開発的生徒指導を基盤に、「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」により、安心して学べる集団・認め合える集団を育成する。

## 2 研究構想図

### 〈社会的な背景〉

- ・子供たちを「学びの主体者」にしていくことの重要性。
- ・「学びに向かう力」を育むことの重要性。

- ・読解力育成の必要性。
- ・学校外での学習状況は、長崎県の喫緊の課題。

### 生徒の実態(学力面)

- 小学校低学年の漢字や基本的な四則の計算が習得できていない低位層の生徒の割合が高い。
- 「文章に現れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」ことができた生徒が13.6%にとどまり、無回答率は31.8%にのぼる。
- 各教科の見方・考え方を働かせて読み取るだけでなく、各教科の知識と技能を根拠にして説明する問題に課題がある。

### 〈学校教育目標〉

志をもち、主体的・自律的に行動する生徒の育成

### 〈重点目標〉

- ①確かな学力の向上(学び合い)
- ②豊かな人間関係の醸成(支え合い)
- ③健康でたくましい生徒の育成(鍛え合い)

### 〔目指す生徒像〕

- 『心豊かで活力に満ちた生徒』
- 学び合い高め合う生徒
  - 思いやる心をもち、努力する生徒
  - 主体的に行動する生徒

### 生徒の実態(生活面)

- 「学校に行くのが楽しい」と肯定的な回答をする生徒が97.7%を超える。
- 生徒会活動等に主体的に取り組み、活発な意見の交流を行う風土がある。
- 学校外での学習時間が2時間に満たない生徒は、81.8%を占め、且つ通塾している割合は54.5%である。
- 1日に本を10分以上読まない生徒が40.9%を占める。

重点項目	〔支持的風土の醸成〕	〔学力の向上〕	〔基本的生活習慣の確立〕
	〔健康・安全指導の充実〕	スローガン 一人になれ 一人になるな	〔社会に開かれた学校づくり〕
	〔人権・平和教育の推進〕	〔特別支援教育の推進〕	〔小中連携の推進〕

### 研究主題

深い学びに向けた授業・家庭学習の創造  
～「学びに向かう力」の育成を目指して～

### 研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を図りつつ、開発的生徒指導を展開し、生徒の自主性と行動力を育てて自己肯定感を高めることで、「学びに向かう力」を育成することができるであろう。

### 【授業研究部】

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の在り方
- (2) 読解力の育成
- (3) ICTの効果的な活用
- (4) 家庭学習課題の在り方

### 【家庭学習研究部】

- (1) 「自分で計画して取り組む調整力」の育成
- (2) 「授業との連動を図った効果的な家庭学習」の在り方
- (3) 言語環境の充実
- (4) 生徒質問紙調査の分析

### 【学級経営研究部】

- (1) 「自治花活動」(開発的生徒指導)の推進
- (2) 「5つの習慣M」の推進
- (3) 学級集団作り(Q-Uテストの活用)
- (4) Niceカード活動の推進

### 学びに向かう力

#### <主体的に学ぶ態度>

- ・学習の見通しをもつ。
- ・自分の考え(予測)をもつ。
- ・理由や根拠を明らかにする。
- ・自分のことばで説明する。
- ・新たな課題を発見する。など

#### <よりよい生活や人間関係をつくらうとする態度> <自分を律する力>

- ・友だちのよさや集団で学ぶよさに気付く。
- ・落ち着いてじっくり考える。
- ・自他の考えを共有する。
- ・協働的に考える。
- ・話し合う。
- ・計画的・継続的に取り組む。など

#### <自分を客観的に把握する力>

- ・自身の成長や変容に気付く。
- ・別の方法や新たな考えに気付く。
- ・考えをまとめるために全体で話し合う。
- ・自分の到達点を計る。など

# 3 授業研究部

**重点課題 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、達成感を味わったり、新たな課題を発見したりすることのできる協働的な学習を仕組むことを通して、実践意欲を高める。**

## 授業改善の手立て ① 【御中スタンダードで授業の流れを生徒と教師で共有】

御中授業スタンダード			
<b>未来を切り拓く羅針盤を手に入れよう！</b> 「考える」、「協働する」、「切り拓く」			
思考の深まり	どんな力？	何をやる？ 何が出来るようになる？	
「めあて」を見通す力	読解力	★授業(単元)の一品目何かをつかむ。	
解決の見通しをもつ力	推論力	★解決のためにどのような方法があるか予想する。	
自分の考えを伝える力	考え力	★既に知っていることや教科書等から情報を収集し、今の自分の考えを整理する。	
協働的に考えを伝える力	協力力	★様々な考えの中から自分たちの考えを抽出し、互いの考えを聞く。考えを分かち合ったり書く。自分の考えを比較する。	
学習内容を覚える力	整理力	★「何がなかったか」「何ができたか」を整理する。	
学習(授業、単元)を振り返る力	見直し力	★どこかに考えが変わったか、を振り返る。	
授業を振り返る。今後の授業に活かす。	振り返り力	★「めあて」と「めあて」を基に学習内容を振り返る。 ★「今日の振り返り」を定着させる。 ★「今日の振り返り」を定着させることに基づいて今後の授業をつぎあげる。 ★疑問に思ったことを調べる。	

御中授業スタンダード			
<b>「長崎県授業改善メソッド」から目標(身に付けさせたい力)を明確にする。</b>			
学習活動	筋路上的留意点	達成度の測り方	
A[めあて]の達成状況を確認する。単元のゴールを確認する。 【長崎県の見直しメソッド】※解決のためのどのような方法があるか。考えを分かち合ったり書く。	口先での説明が「めあて」と整理できようとしたか。	図解の活用	
B[自分の考えを伝える]自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。	口先での説明が整理できようとしたか。	図解の活用	
C[協働的に考えを伝える]自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。	口先での説明が整理できようとしたか。	図解の活用	
D[学習内容を覚える]自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。	口先での説明が整理できようとしたか。	図解の活用	
E[振り返る]自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。自分の考えを整理する。	口先での説明が整理できようとしたか。	図解の活用	

「長崎県授業改善メソッド」を踏まえ、授業者として押さえておきたい事項を示した、本校の授業のグランドデザインを「御中授業スタンダード」として示した。(研究成果集1-1・2)

教員によって授業スタイルが変わるのではなく、家庭学習との連動を視野に入れた授業展開を全教員が仕組むことができるように授業改善を積み重ねている。  
また、生徒も同様に授業のグランドデザインを共通理解することができるように、授業スタンダードを配布して、各学級で授業への臨み方を確認した。御中スタンダードの徹底を図ることで、生徒が授業に見通しをもち、主体的に取り組めるようにしている。

〈生徒用〉

〈教師用〉

## 授業改善の手立て ② 【思考活動の整理・自分の考えを書く活動を重視】

### 思考活動

**目的** 知識・技能を深め、解法・より深い理解につながる。

**基本となる考え方** 生徒が「面白い」と感じ、深く考えるための適切な問い(教材の「見方・考え方」)を基に考える活動をする。

**基本となるスタイル** 思考を促進する問い、何を考えるのかを明確にする。思考の深まりを促す。思考の深まりを促す。思考の深まりを促す。

**教材** どのような教材か？  
学習指導要領の観点から、単元の目標を達成するために必要な教材を選択する。

**問い** どのような問いか？  
単元の目標を達成するために必要な問いを選択する。

**問いの整理** 問いの整理。問いの整理。問いの整理。問いの整理。

**問いの整理** 問いの整理。問いの整理。問いの整理。問いの整理。

**問いの整理** 問いの整理。問いの整理。問いの整理。問いの整理。

### 単元づくり ~単元指導計画のつくり方~

**1. 1指す生徒の姿(ロー像)を明確にする。**

(1) 学習指導要領を学び、本単元で何を学ばせるかを確認する。  
(2) 単元の学習目標を設定し、どんな理解を促すようになっているか、どんな力を身に付けさせたいかを、具体的に思い出す。

**2. 単元を通してどんな力が必要かを考える。**

(1) 1で考えた理解を深めるために、どんな力が必要かを考える。  
(2) (1)の答えを、この単元を通して身に付けさせたいかを、具体的に思い出す。

**3. 3の場面などでどんな力が必要かを考える。**

(1) 単元の学習目標を設定し、どんな理解を促すようになっているか、どんな力を身に付けさせたいかを、具体的に思い出す。  
(2) 単元の学習目標を設定し、どんな理解を促すようになっているか、どんな力を身に付けさせたいかを、具体的に思い出す。

**4. 思考活動に重点をおいた授業を位置付ける。**

単元を通して、より主体的に学習に向かわせるポイントを設定する。単元を通して、より主体的に学習に向かわせるポイントを設定する。

「御中授業スタンダード」の展開段階に位置付けている「思考活動」について、内容を整理して示した。(研究成果集2-1) ここで、思考を広げ深めることができるように「交流活動」を位置付けることで、自分の考えを付加、修正し、再構築することができる考えた。各教科の思考活動の具を並べて示すことで、無意識に存在する教科の壁を取り払い、教科横断的に授業の在り方を理解できるよう全教員で研修を行った。

また、本校の課題である「自分の考えを書き表す力」の育成のために、「書く活動」を意図的に仕組む必要性を確認し、実践に励んでいる。さらに、単元を通して生徒にどのような資質・能力を身に付けさせるのかを明確にした単元指導計画のつくり方について研修を行った(研究成果集2-2)。

## 授業改善の手立て ③ 【生徒の声を活用】

### 生徒アンケート

このアンケートは、よりよい授業を実現するための調査票であり、結果は公開しない。必ずしも13学年の授業についてあるが、状況に応じて活用される。

年 組 科 教	1	2	3	4	5
1. 授業の進め方に、先生との対話(めあて)が活発に行われているか。	4	3	2	1	0
2. 授業の進め方に、先生との対話(めあて)が活発に行われているか。	4	3	2	1	0
3. 授業の進め方に、先生との対話(めあて)が活発に行われているか。	4	3	2	1	0
4. 授業の進め方に、先生との対話(めあて)が活発に行われているか。	4	3	2	1	0
5. 授業の進め方に、先生との対話(めあて)が活発に行われているか。	4	3	2	1	0
6. 授業の進め方に、先生との対話(めあて)が活発に行われているか。	4	3	2	1	0
7. 授業の進め方に、先生との対話(めあて)が活発に行われているか。	4	3	2	1	0
8. 授業の進め方に、先生との対話(めあて)が活発に行われているか。	4	3	2	1	0
9. 授業の進め方に、先生との対話(めあて)が活発に行われているか。	4	3	2	1	0
10. 授業の進め方に、先生との対話(めあて)が活発に行われているか。	4	3	2	1	0

ご協力ありがとうございました。  
年 組 番 氏 名

生徒にめあてとまとめが届いているか、思考活動が効果的に行われているか、家庭学習で授業内容をより広げたり、深めたりできるような働き掛けを行うことができるかなど、御中スタンダードが共通実践できているかを把握するため、授業アンケートを活用している(研究成果集3-1・2)。教師用・生徒用を作成し、生徒の声を生かした授業改善を行っている。

## 授業改善の手立て ④ 【活発な授業研究】

### 授業参観シート

参観日時: 年 月 日 時刻 参観者:

**観察の視点**

**学習環境**

**自分の考えをもつ**

**協働的に考える**

**整理する**

**振り返る**

作成した授業参観シートは、授業改善のための資料として活用される。授業参観シートは、授業参観シートとして活用される。

主体的・対話的で深い学びを実現するための授業参観シート

主体的・対話的で深い学びを実現するための授業参観シート

主体的・対話的で深い学びを実現するための授業参観シート

授業研究を行う際、生徒の姿を主眼として、視点を定めて授業を見るように、授業参観シートを活用している(研究成果集4-1・2)。経験年数や教科のバランスを踏まえて班編成を行い、生徒の姿を通して授業について語り合うことは、各自の授業改善の一助となっている。

生徒の声を生かした授業改善を行っている。改善の一助となっている。

# 4 家庭学習研究部

**重点課題** 授業との関連を図り、自らを律し計画的に自主学習に取り組む調整力を育てるとともに、学習内容の理解を深めるための効果的な学習方法(書く学習、デジタルドリル、読書など)を研究し、授業と家庭学習の学習サイクルを確立する。

## 家庭学習と授業との連動への手立て①【家庭学習の方法を全校で統一】

**復習ノート【平日】の実施**

- ① 復習ノート(国・英・数)の作成
- ② 「めあて」「まとめ」の再確認
- ③ 授業ノートの拡充(ポイント整理・気づき等)
- ④ 自己評価(ABC)+教師の評価
- ⑤ 「エクセレントノート」の公表

【土・日・祝日】  
学習内容のまとめや単元ごとにAIドリルの活用、ワーク、問題集

この研究以前の家庭学習は、自主学習ノートに1ページ取り組み、担任がチェックするというものだった。自ら課題を発見することができずに簡単な単語練習を行うだけで終わらせる生徒が大半であったことに加え、担任教師の専門性によって取組の充実度が変わってしまっていたことが課題であった。

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査や県や市の学力テスト結果分析などを踏まえ、本校の生徒たちにとって今必要な家庭学習とは何かについて、全教員で何度も話し

いを重ねた。

その中で、平日はその日にあった5教科の中から3教科以上を生徒自身が選択して「復習ノート」に取り組むこととした。また、その点検は教科担当が行い、必ず評価(S・A・B・C)を行うこととした。

復習ノートに取り組むことは、生徒・教師両方にとって大変効果的であったと考える。生徒が授業の復習をその日のうちに確実にを行い、さらに自分なりにポイントを整理し、教科担当へ授業中にできなかった質問等をすることに直結した。教員にとっては、授業内容の定着度合いを測ることや板書計画の練り直しができた。また、確実な授業改善につながった。

## 家庭学習と授業との連動への手立て②【がんばりカードによる自己調整能力の育成】

**家庭学習の手引き** 家庭学習の習慣化で「学ぶ力」を育てよう!

家庭学習の習慣化に向けて力を入れてほしいこと!

ネットやゲームは時間を決めて、メリハリを!

**生活のリズムを整えましょう!**

勉強に集中できる環境を家族で協力して時間づくり

**学ぶ雰囲気をつくりましょう!**

家庭学習の習慣化のために我が家の約束事

子どもに役割を失敗は成功のもと

**小さな「がんばり」を見つけましょう!**

あいさつを大切に新聞やニュースも話題に

**家族の対話を大切にしましょう!**

年 組 番 氏名

9月 家庭学習がんばりカード

日	月	火	水	木	金	土	日	保護者サイン
1					1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10		
11	12	13	14	15	16	17		
18	19	20	21	22	23	24		
25	26	27	28	29	30			

振り返り  
保護者より  
学校より

自分の学習に対する意欲や学習方法を振り返って調整し、効果的に学習を進めていくために、家庭と協働できるように「がんばりカード」を作成した(研究成果集5-1・3)。その日行う家庭学習の計画を生徒自身が立て、翌日の朝の会の時間までに自己評価を行う。1カ月ごとに自身の取組を振り返り、保護者からのコメントを書いてもらうことによって、家庭学習の習慣化を目指している。

テスト2週間前には、全校統一した学活の時間を設定し、テスト勉強計画を立てさせ、実施に向けて支援・指導している。

家庭からのコメントが続くことで、早期に習慣化できた生徒も見られることから、家庭との連携が生徒の家庭学習の習慣化を図る上で大きなウエ

イトを占めることが明確となった。これからも家庭学習の習慣化と自己調整能力の育成を目指し、続けていきたい。

## 家庭学習と授業との連動への手立て③【エクセレントノートの提示】

①において提出された各教科の復習ノートの中で、S評価である「エクセレントノート」を提示し、内容の充実と向上を目指している。S評価とA評価の違いについて、他の生徒の参考となるポイントを示すことで、家庭学習の質の向上を図っている。

提示時期としては、学習時間が短くなる傾向になる定期テスト後に設定し、学習習慣の定着を図るために、学習の目標をもたせて学習時間を維持させている。この取組は、学習委員会の取組として行い、上位層の意欲喚起につながっている。



## 家庭学習と授業との連動への手立て④【定期テスト用ノートの活用】



国語・英語・数学の3教科の復習ノートの提出が8割台で安定し、家庭学習が生徒の「習慣」として定着してきた頃、9教科で実施する定期テストに向けて、どのように家庭学習に取り組むのかが課題となった。

教科担当が評価できるように「定期テスト用家庭学習ノート」を全教科分作成し、提出状況や活用の実態を検証しようと提案した。3年間見通した教科経営の視点が必要なことから、導入には賛否両論あった。しかし、活用後の検証から、プリント学習では積み上がらない知識・技能を伸ばす手立てとしては非常に有効であると考えた。

生徒の資質・能力の育成を目指した取組の重要性をこれからも共有しながら教育活動を続けていきたい。

## 家庭学習と授業との連動への手立て⑤【提出物チェックシートのIT化】



これまでは、復習ノートの提出者を名簿でチェックし、提出の有無を確認していたが、集計等が煩雑になることから、提出物チェックシートのIT化を図った。その日の家庭学習や生活ノート等の提出状況を表計算ソフトウェアの提出物チェックシートに直接入力することで、全

教員が瞬時に把握することができるようになった。担任だけが生徒の提出状況を把握しているという従来の状況ではなく、どこでもだれでも提出状況を把握できるため、生徒の提出状況を踏まえた指導・支援ができています。

## 家庭学習と授業との連動への手立て⑥【学級文庫の設置と朝読書の実施】

「主体的に学ぶ態度」を育成するためには、学習の基盤となる言語能力の育成を図る必要がある。本校の大きな課題として、読書を全くしないと答える生徒が令和3年度では、36.4%であったことが挙げられる。家庭での本の保有書数も非常に少なく、新聞を読まない生徒は、81.8%を占める実態であった。そのような状況を打破しようと図書館担当教諭や支援員が図書室に足を運ぶように多くの取組を行ってきたが、効果はなかなか現れなかった。

そのため、本との距離を物理的にも心理的にも縮めるために、各教室に学級文庫を本年度から設置した。市立図書館の団体貸し出しも活用し、生徒に読んでほしい本を身近に置いた。この取組によって、休み時間等に生徒が本を手に取り、読む姿を見られるようになった。

これまで学力向上を目指して、朝学習の時間をドリルの時間や視写トレ等に当ててきた。しかし、学力向上には寄与しない実態があった。朝読書を導入したことにより、生徒の読書活動推進になるとともに、落ち着いた学校生活のスタートを切ることができている。

今後は、家庭における読書活動の推進を図るとともに、多くの文章に触れることで情報を正確に読み取ることができるような手立てを行っていきたい。



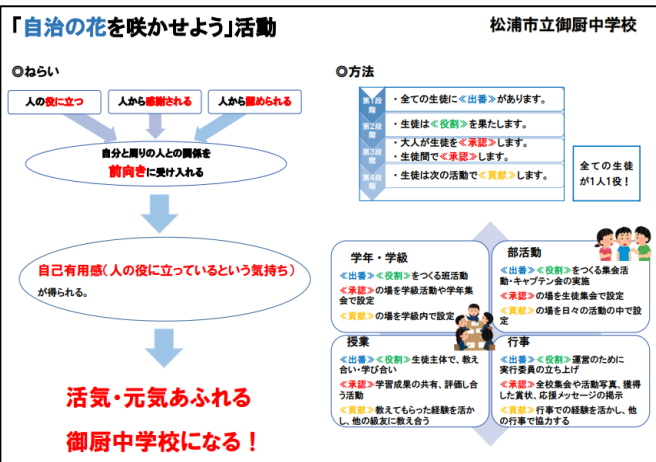
質問事項	年度	全くしない
学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか	4	42.5
	5	24.5

質問事項	年度	肯定的意見	否定的意見
読書は好きですか	4	55.0	45.0
	5	63.2	34.8

# 5 学級経営研究部

重点課題 開発的生徒指導を基盤に「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」により安心して学べる集団・認め合える集団をつくる。

## 支持的風土の醸成への手立て①【自治花活動の活性化】



自治花活動とは、始業式や行事などの企画、運営、司会等全ての生徒に出番を設定し、役割を果たすことで承認されるという段階を踏んでいく中で、自己有用感を高めることができるようにする開発的生徒指導である。(研究成果集6-1)

平成28年度まで、本校は不登校生徒が多く、自己肯定感が低い傾向にあった。それを改善させていこうと佐賀市立金泉中学校の生徒指導を参考にして、この活動を始めた。生徒が自分たちに関することを自らの責任において行う自治的な集団へと成長することに資する活動であるため、教員のバックアップが重要である。この活動を経験し、自信を付けた生徒たちは、学年が上がるにつれ、学校行事の中で自分がどの場面でどのように学校に貢献するか、前年度よりもハードルの高い「役割」を果たそうと一層主体的に取り組むようになる。生徒会活動とは異なる部分を持ち、全ての生徒が主役になることができる取組である。

本年度は【究極の自治花】と銘打ち、生徒がPDCAサイクルを意識して主体的に自治花活動に取り組み、表計算ソフトウェアを活用して、次年度への引継ぎもしている。学期の終わりには、「自治花振り返り会」を実施し、互いの活動を承認し、よりよい活動にしていこうとブラッシュアップしている。



## 支持的風土の醸成への手立て②【ナイスカード活動の推進】



Niceカード活動 5/22(月) 年組	
項目	チェック
できた... ○ できなかった、実施していない... X	
8:00 3分前席完了	
全員やり取り帳提出	
全員課題(自学)・がんばりカード提出	
静かに朝読書	
朝・帰 名札着用・名札返却	
授業 全授業 3分前席 2分前学習	
給食 給食当番、12:55までに返却	
掃除 掃除の時間厳守、無言清掃	
備り 机の中の整理整頓	
その他 本の貸し出し冊数 1週間クラスで1人1冊:1枚 1人2冊:2枚	

学校生活を向上させようとする意識を高めるため、ナイスカード活動を学期に1回実施している。(研究成果集7-2)

2年目となる本年度は、新入生が学校生活に慣れた5月下旬に1回目を実施した。この活動は、学校生活上望ましい行動をナイスカードの項目によって再確認し、これまでの自分や学級を見つめ直す機会としている。生徒が主体的に活動できるように、必要に応じて生徒会執行部や専門委員長が項目を見直しながら実施している。ナイスカードマウンテンとして、各クラスのカードの枚数と、振り返りを掲示することで、意欲喚起を行っている。

## 支持的風土の醸成への手立て③【Q-Uの活用】

長崎大学 内野成美教授に御指導いただき、Q-Uテストによる学級の実態把握と改善策の検討を行い、学年職員間で情報を共有し、指導改善につなげている。学校生活満足群や不満足群を把握することで、今年度の学級経営の成果や課題を分析・共有し、SCによる要支援群に対するカウンセリングの実施等、学校全体を挙げて支援していく体制を整えている。

[単位%] (令和4年度)

	学校生活満足群			非承認群			侵害行為認知群			学校生活不満足群		
	1回目	2回目	変化	1回目	2回目	変化	1回目	2回目	変化	1回目	2回目	変化
1年1組	40	40	→	20	20	→	15	20	↓	25	20	↑
1年2組	53	68	↑	11	0	↑	16	16	→	21	16	↑
2年1組	69	77	↑	0	0	→	15	8	↑	15	15	→
2年2組	64	68	↑	8	4	↑	20	12	↑	8	16	↓
3年1組	66	77	↑	16	8	↑	8	3	↑	11	13	↓
全国	19			18			13			28		

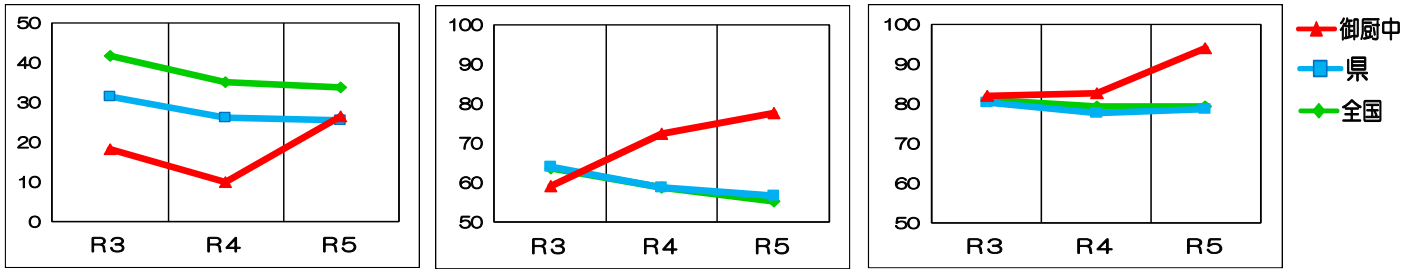
# 6 成果と課題

## 生徒の変容 ①【学びに向かう力の伸長】 (令和3~5年度全国学力・学習状況調査 生徒質問紙調査)

①平日の学習時間が2時間以上

②自分で計画を立てて勉強

③授業で自分で考え、取り組む



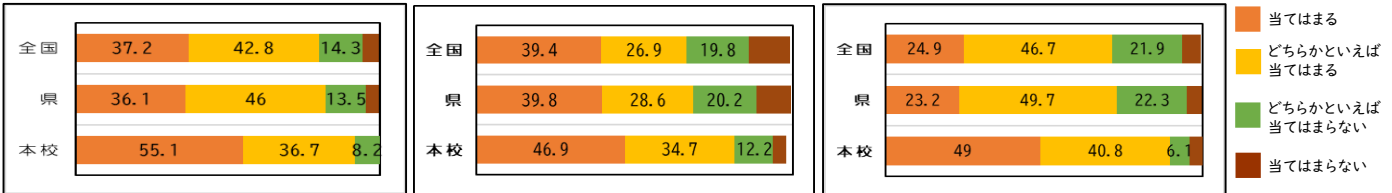
令和3~5年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査における調査結果を比較すると、三つ全ての項目で向上が見られた。授業に主体的に取り組んでいるという意識や、自らの意志で家庭学習に取り組んでいるという実感が高まったことが分かる。このことより、本研究の様々な手立てが、生徒の学びに向かう力の伸長につながってきていると考えられる。

## 生徒の変容 ②【開発的生徒指導と授業改善の効果】 (令和5年度全国学力・学習状況調査 生徒質問紙調査)

①自分にはよいところがある

②将来の夢や目標をもっている

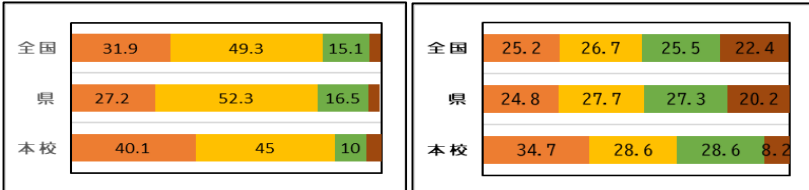
③話し合いを生かして努力すべきことを決定



④国語の授業内容が分かる

⑤英語の授業内容が分かる

①~③の結果より、主体的で自主的な意識の向上が図られたと捉えている。本校の開発的生徒指導の成果であると考えられる。



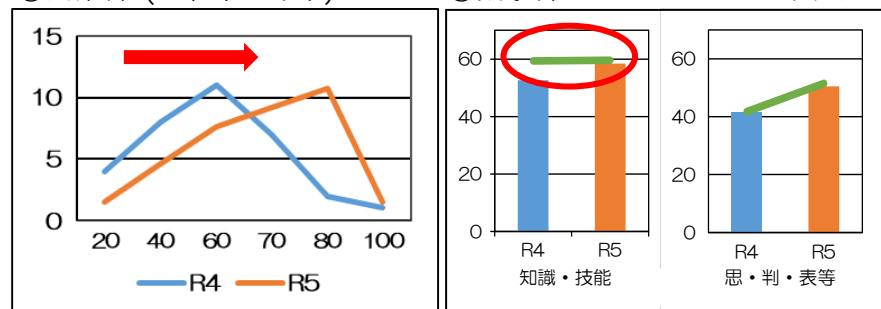
また、④・⑤の結果より、授業改善の効果が表れていると考えている。今後も協働的に考える場面を設定し、生徒主体の授業を展開していきたい。

## 生徒の変容 ③【知識・技能の定着に寄与】 (令和4・5年度県学力調査)

①国語科 (正答率の分布)

②数学科

—— 県平均



①・②より、国語科において低位層が中位層に移行し、数学科において知識・技能の正答率に高まりが見られた。

本研究において実施した家庭学習の進め方は、中程度から低位層の生徒にとって、授業の復習をその日に行うという家庭学習の方法が明確になり、知識・技能の確実な定着に寄与したと考えられる。

## 成果と課題

### 成果

### 課題

- 効果的な家庭学習について、全教員で内容定着に向けての指導方法を共通理解し、実践することでできた。
- 8割の生徒に復習ノートの習慣化が図られ、計画的・継続的な学習習慣が身に付きつつある。
- 「御中授業スタンダード」に沿い、多くの場面で協働的な学習を展開したことで、課題に対し自分の考えをもち、他者の意見を聞き入れたりする態度が育ち、自分の言葉で説明する力を高めることにつながった。
- 自治花活動(開発的生徒指導)の継続により、生徒の自主性が育つとともに、支持的風土が醸成され、学校全体の活性化につながった。

- △復習ノートの取組が安定しない2割の生徒に対し、学習意欲の向上を図る手立てが必要である。家庭と連携して、学習習慣を身に付けることができるようにしていくことが重要である。
- △一つ一つの授業の学習課題(めあて)が、「学習内容と活動とを密接に関連させているものになっているか」「自身の成長や到達点を自覚できる振り返りがなされているか」検証していく必要がある。
- △自治花活動が形骸化したり、学級集団の落ち着きがなくなったりする場面があったことから、育成を目指す生徒の姿をより明確にして共有することが重要である。